URP Osaka City University
Newsletter
Issue 43, May.2019
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター第 43 号 2019 年 5 月

「先端的都市研究拠点」事業総括シンポジウム

Osaka City University's Platform for Leading-Edge Urban Studies Symposium

2 月 2 日(土)、本学高原記念館学友ホールにおいて、「大阪市立大学先端的都市研究拠点事業総括シンポジウム」を実施した。

都市研究プラザ（URP）は、2006 年の設立以来、世界及びアジアの都市をフィールドに据え、文化創造と社会包摂に資する先端的都市論の構築をめざしてきた。2014 年度には、文部科学省・共同利用・共同研究拠点「先端的都市研究拠点」として認定され、最初の 3 年間は「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～スタートアップ支援」に採択された。それまで内外の連携研究機関とともに蓄積してきた研究・学術資源を、地域や一般社会と深く共有し、協力関係の強化へとつなげ、さらに先端的都市研究をスケールアップしていくための拠点として、整備を進めてきた。その結果、2016 年度までの活動について、「中間評価」で A 評価を受けている。

今回のシンポジウムは、共同利用・共同研究拠点認定の最終年度を控え、共同研究者や海外学術機関、国内外の行政関係者からの報告を交えて、本拠点のこれまでの取り組みを総括するとともに、今後を展望するものとして企画したものである。

当日は、櫻木弘之本学副学長の開会あいさつに始まり、阿部昌樹 URP 所長による事業報告を行った。続いて、文部科学省より、同省研究振興局学術機関の西井知紀課長より、本事業の趣旨や各学術機関での進捗状況、URP での同事業に対する期待を述べていただいた。

続いて、本拠点事業の一環である各学術機関等との 5 件の共同研究プロジェクトの成果報告があり、次いで、URP と学術協定を締結した韓国ソウル市城東区の鄭愿伍区長による特別講演が行われた。あわせて、香港、台湾、アメリカより招聘した研究者による都市問題や社会的企業、社会福祉政策をテーマとした招聘講演が 3 件行われた。

その後、URP に若手研究員として在籍し、現在は各地で第一線の研究者として活躍する 3 人からの研究成果報告と、URP が韓国、台湾、香港など、東アジアの各都市の現場ワーカーや研究者たちによる、国際共同のプラットフォーム（東アジアインクルーシブシティネットワーク(EA-ICN))の構築をめざして実施してきた「東アジア包摂都市ネットワークワークショップ」に参加した府下自治体職員からの、都市研究プラザとの連携への成果などの報告が行われた。

以上の報告を受け、水内俊雄 URP 教授と全泓奎 URP 副所長より、総括討論として、今後の URP における拠点活動の展開と将来像の方向性が提示され、シンポジウムが閉められた。

■鄭栄鎭（URP 特任講師）

阿部 URP 所長（左）とソウル市城東区の鄭愿伍区長（右）

On February 2nd (Saturday), "Osaka City University's Platform for Leading-Edge Urban Studies Symposium" was conducted at Osaka City University Takahara Hall. As FY 2019 will be the final year of Joint Usage/ Research Center Program, the objective of this symposium was to summarize reports from young researchers, joint researchers, academic institutions/administrative organs abroad in cooperation, and to survey urban studies in the future. It offered invited speeches from Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Young Special Researchers, researchers from abroad, a series of joint project reports, and presentations by local governments in liaison with URP, on what they expect from research collaboration.

2018 年度第 2 回
URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会
The 2nd Annual Workshop for URP Special Researchers (Young, Leading Edge Urban Studies)

総括シンポジウムの前日となる 2 月 1 日（金）には、本年度第二回目となる、都市研究プラザ URP 特別研究員（若手）による合評会が開かれた。

当日は、若手研究員 5 人の発表に加え、海外学術機関に所属する特別研究員 1 人が研究発表を行った。また、総括シンポジウムで講演予定の海外ゲストも参加し、研究発表に熱心に耳を傾けた。

6 人の研究員の発表は、「社会的不利地域におけるコミュニティ再生モデルの構築」や、「表現活動が取りあげる関係性」「子どもの参加するまちづくり」など、多岐にわたるものである。しかし、いずれの研究とも、URP がこの間構築をめざしてきた、「文化創造」と「社会的包摂」に資する先端的都市論に根ざしたといえるものであった。

若手研究員や教員のみならず、海外ゲストからも活発な質問が寄せられた。特に海外ゲストからは、各国の都市問題などを踏まえた上での多くの質問が各研究員に寄せられ、日本を含む東アジアの現状を比較検討できる場となり、各研究員にとって貴重な場となった。阿部 URP 所長からは、個別の事例を一般化するために、事例と理論を往還して検討することが大切である、といった研究のあり方について言及があった。

多岐にわたる学問領域や研究分野に属する参加者間の議論により、各研究員が自身の研究に対する新たな視角や刺激を得られる有意義な場となった。

■池田千恵子（URP 特別研究員〔若手･先端都市〕）

The “2nd Annual Workshop for URP Special Researchers (Young)” was held on February 1 (Friday), 2019 at Osaka City University Takahara Hall. Six Special Researchers gave presentations and participants had an animated discussion in the light of each country’s urban problems. It turned out to be a fruitful occasion to compare and consider the current situation in East Asia including Japan, and to acquire new knowledge and stimulus for researchers.

▼第 2 回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会（2 月 1 日開催）

□開催挨拶
阿部昌樹（URP 所長）

□Session
- 池田千恵子：「観光産業の拡大にともなう都市の変容－ツーリズムジェントリフィケーション－」
- 矢野淳士：「社会的不利地域におけるコミュニティ再生モデルの構築」
- 久谷明子：「子どもの参加するまちづくり－高知市と宝塚市の取組みを事例として－」
- 彌吉恵子：「物語ってもらえない時－移民の診療にあたるイタリアの精神保健従事者に注目して－」
- 小泉朝未：「表現活動が取りあげる関係性－アートプロジェクトにおける交わりの身体性の考察から－」
- 劉恩英：「東亞城市的青年貧困與住宅政策：臺北、香港、與首爾的比較研究」

□コメント
- 葉毅明 Yip Ngai-ming
- 周宗穎 Zong Ying Zhou
- Myoung-Shik(Mason) Kim

▼大阪市立大学「先端的都市研究拠点」事業総括シンポジウム（2 月 2 日開催）

□開会挨拶
櫻木弘之（大阪市立大学副学長）

□事業成果報告
阿部昌樹（URP 所長）

□招待講演
西崎知紀（文部科学省研究振興局学術機関課長）

□共同研究プロジェクトの成果報告
古下政義（EAICN-Japan）
畠中亨（帝京平成大学）
西野雄一郎（福岡大学）
福本拓（宮崎産業経営大学）
山本周平（AKY インクルーシブコミュニティ研究所）

□大韓民国ソウル特別市城東区と大阪市立大学都市研究プラザの学術交流に関する協定書締結式

□海外招聘者特別講演
- 鄭愿伍 Chong Won O（ソウル特別市城東区長）
- 葉毅明 Yip Ngai-ming（City University of Hong Kong）
- 周宗穎 Zong Ying Zhou（Fu-Jen Catholic University）
- Myoung-Shik(Mason) Kim（Spelman Callege）

□URP 先端都市特別研究員（若手）終了者による研究成果報告
- 湯山篤（ソウル大学校博士課程）
- ヒェラルド コルナトウスキ（九州大学講師）
- 水野延之（岩手大学准教授）

□EAICN-Japan 活動報告
八尾市

□総括討論
- 水内俊雄（URP 教授）
- 全泓奎（URP 副所長）

□閉会挨拶

「音や絵であそぼう」ワークショップ

Let's play with sounds and drawing

2019 年 3 月 2 日、文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」平成 30 年度連携型共同研究の助成を受けた事業として、和歌山県の中学校において、特別支援学級に通う生徒や兄弟、父母 14 名を対象に、楽譜制作と音や体で表現を楽しむワークショップを行った。本研究は、和歌山大学教育学部で音楽教育を専門とする上野智子氏ら 3 名の研究者との共同研究である。和歌山大学の教員は、すでに同校で年間 5 回授業を行っており、実績を持っていた。阪神間からは、筆者が主宰する「おとあそび工房」に参加の即興表現の得意なメンバーが 6 名加わった。

ワークショップでは、まず和歌山大学教員による「はじまりのうた」から始め、歌いながら互いに挨拶をした後、「おとあそび工房」のメンバーが楽器、踊り、指揮などで即興的な表現を始め、円になって座っていた参加者と音や身体表現で交流した。その後、写真にあるような楽譜の制作を行い、演奏方法を皆で考えながら、アンサンブルを即興的に行なった。雨や風などの自然音を模した演奏、既存の楽曲とそうでないものを組み合わせた演奏、声や体を使って絵の形を表現するものなど、多彩な表現が繰り広げられた。

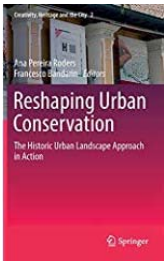
終了後の感想からは、日常とは異なる多様な表現を共に楽しむ場をもてたことは大きな意味があること、また、楽譜の使用により即興表現をする際にコンセプトがより明確になるという効果が見られることがわかった。

■沼田里衣（URP テニュアトラック特任准教授）

On March 2, 2019, as a part of joint research with faculty members of the Faculty of Education, Wakayama University, a workshop was held at a Junior High School in Wakayama, for 14 participants, including students from Special Needs Education class as well as their family members. With an improvisational performance group, active in Kobe/Osaka area, they created musical scores and enjoyed expressing nature and drawing through sounds and body movements. The incorporation of visual elements such as musical score into improvisational performance, which is jointly enjoyable for all, enabled the ensemble to be conceptually clearer.

都市創造性コラム 6

Column for Urban Creativity 6



Reshaping Urban Conservation: The Historic Urban Landscape Approach in Action (Creativity, Heritage and the City の第二冊目) Ana Pereira Roders (編集), Francesco Bandarin (編集) ハードカバー、570 頁、2019 年刊行。

本書は、歴史的都市景観に関する 2011 年ユネスコ勧告（Historic Urban Landscape Approach, HUL）地域・都市の計画・管理において（文化）遺産のファクターを組み込むことによって持続可能な都市を構築することを目的としており、岡野が編集長を務める Springer and Nature 社からの英文単行本シリーズ Creativity, Heritage and the City (CHC)の第 2 巻目として発刊された。編者の一人は都市研究プラザ設立の初期段階から編集を担ってきた国際ジャーナル (CCS) の編集長を務め、UNESCO パリ本部・文化局のトップとして、また世界遺産センター長として地球規模の文化行政に多大な貢献をされてきたフランチェスコ・バンダリン氏である。もう一人のアナ・ローダーズ氏は、オランダのデルフト工科大学 (TU Delft) の遺産管理の正教授で、建築、都市計画、法律、環境管理、およびコンピュータサイエンスの分野にわたる研究者である。

本書は、HUL アプローチを実施してきた 28 都市のベストプラクティスを世界で初めて網羅的にまとめたものであり、都市が主要な紛争を回避し競争力をさらに発展させることを可能にすることができる地域および都市計画・管理についてイノベーションの実態が示されている。世界レベルのパートナーシップの重要性とともに、財務レベルと持続可能性を重視し、（文化）遺産を都市開発における重要な資源として利用することに重きを置いている。

■岡野浩（URP 教授）

序：One recommendation, five years (Francesco Bandarin and Ana Pereira Roders).
Africa.
1. Cape Town, South Africa (Albrecht Herholdt and Stephen Townsend).
2. Island of Mozambique, Mozambique (Solange Macamo and Albino Jopela).
3. Lamu, Kenya (Salim Bunu and Arthur Chen).
4. Zanzibar, Tanzania (Muhammad Juma and Mike Turner).
5. Djenné, Mali (Annette Schmidt en Pierre Maas).- Arab States.
6. Cairo, Egypt (Alah el-Habashi).
7. Rabat, Morocco (Hassan Radoine).
8. Damascus, Syria (Ataa Alsalloum).
9. Zabid, Yemen (Cristina Iamandi).
10. Kuwait City, Kywait (Roha Khalaf and Christina Cameron).
Asia and the Pacific.
11. Ballarat, Australia (Susan Fayad and Kristal Buckley).
12. Bangalore, India (Jyoti Hosagrahar).
13. Lhasa, China (Gamini Wijesuriya).
14. Samarkand, Uzbekistan (Ona Vileikis and Koen van Balen).
15. Bangkok, Thailand (Ken Taylor).
Europe and North America.
16. Amsterdam, The Netherlands (Loes Veldpaus and Johan Swart).
17. Edinburgh, Scotland (Adam Wilkinson and Dennis Rodwell).
18. Naples, Italy (Mariarosaria Angrisano and Luigi Girard).
19. New Orleans, USA (Patricia O'Donnell and Julian Smith).
20. Regensburg, Germany (Matthias Ripp and Susanne Hauer).
Latin America and the Caribbean.
21. Cuenca, Equator (Maria Eugenia Siguencia Avila and Julia Rey Perez).
22. Havana, Cuba (Pablo Fornet Gil and Julio Cesar Perez).
23. Mexico, Mexico (Deniz Ikiz, Aylin Orbasli and Marcel Vellinga).
24. San Salvador de Bahia, Brazil (Silvio Zancheti).
25. Bogotá, Colombia (Juliana Forero Bordamalo).
結：Twenty-five cities, hundred lessons (Ana Pereira Roders and Francesco Bandarin).

『都市と社会』の創刊

First issue of Journal of Urban Society

都市研究プラザの紀要『都市と社会』が、本年 3 月に刊行された。

都市研究プラザは、国際的な学術出版社である Elsevier 社に働きかけ、2010 年に国際的学術誌 City, Culture and Society を創刊し、現在もこの国際的学術誌の継続刊行を中心的に支えている。その一方で、独自に和文の学術雑誌を発行することは控えてきた。それは、都市研究プラザに集う研究者はいずれも、国内のいずれかの学会に所属しており、優れた論文であれば、それらの学会が刊行している学術雑誌に掲載されるはずであり、敢えて独自の発表媒体を用意する必要はないという認識に基づいてのことであった。

しかしながら、都市研究プラザは、2006 年に創設されて以来一貫して、共同研究の推進とともに若手研究者の育成に力を入れてきており、若手研究者がその研究成果を公表する媒体を整えることは、都市研究プラザが取り組むに値する事業なのではないかと考えるに至った。

また、都市研究プラザがこれまで推進してきた学際的な都市研究の成果は、それぞれに特定の研究分野に特化した学会が刊行する学術雑誌にはうまく収まらず、それゆえに、斬新な発想に基づいた優れた学術論文であるにもかかわらず適切な発表媒体が見出せないということが生じかねない。そうした研究成果の受け皿として独自の学術雑誌を刊行することには、十分な意義がある。

『都市と社会』の創刊は、そうした判断に基づいてのことである。

まずは都市研究プラザに所属する研究者の学際的な都市研究の成果を公表する媒体として機能することを念頭に置いてのことであったが、投稿者を都市研究プラザに所属する研究者に限定することは、都市に関心を有するすべての人々に開かれた「広場」でありたいという、都市研究プラザのそもそもの創設理念に反する。そこで、都市研究プラザに所属しているか否かを問わず、都市問題に関心を有する者であれば、誰でも投稿できるものとすることにした。そして、海外からの投稿も念頭に置いて、英文論文も掲載することとした。

また、学術雑誌としての質を維持するために、投稿論文はすべて査読に付し、査読者による評価を踏まえて、編集委員会として掲載の可否を判断することとした。

さしあたり、年 1 回の刊行を予定している。既存の研究分野の枠にとらわれない、学際的で斬新な発想に基づいた論文が多数投稿されることを期待している。

■阿部昌樹（URP 所長／法学研究科教授）

URP先端的都市研究ブックレットシリーズ発行

URP Leading-Edge Urban Studies Booklet Series

都市研究プラザではこれまでプラザが蓄積してきた研究やさまざまな資源を、地域や一般社会、全国の研究機関などと共有／協力すべく共同研究事業に取り組み、都市研究における先端的取り組みをスケールアップしていくための連携型拠点として整備をはかっている。このたび、その成果として、先端的都市研究ブックレットシリーズを 4 冊刊行した（写真はシリーズ 16）。

＊ご関心のある方は連絡ください。ただし、部数に限りがありますので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

URP Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長 阿部昌樹　副所長 全泓奎 林久善

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第 43 号
編集長（発行責任者）阿部昌樹
副編集長　全泓奎　水内俊雄　岡野浩
編集主幹　鄭栄鎭　波床尚美